

夢、私たちに。 わたしのひとこと



大病を乗り越え

森上 飯島 忠一

平成9年に大病をして、このままだと一年半の命と言われ、途方に暮れましたが、手術も成功し、今年で14年を迎えます。加齢と同時に幾多の病と立ち向かわなくてはいけない年齢になりました。健康管理は、今まで以上にしていきたいと思います。命を頂いた事で何か自分に出来る事が無いかと探し、NPO腹話術友の会に所属して13年目に入りました。

福祉施設の白嶺はじめ、何ヶ所かの施設で、腹話術、沖縄太鼓等を使い活動しています。特に一人ひとり太鼓を叩いて頂く時は、不自由な体でも生き生きとしている姿を見ると、私も感動です。福祉は、多くの人が機会有るごとに、自分が出来る事に携わる事で、明るい環境が出来ると思います。見知らぬ同士が分かち合い良き社会を築く事は大切だと痛切に思います。何時かはお世話にならなければ為らない訳ですから、一人でも多くの方が参画出来る後継の道を拓いて行きたいと思います。益々健康で精進して社会貢献して行きます。



狩猟と有害鳥獣駆除

白馬町 内川 史郎

私は狩猟を始めて35年になります。昔と今では獲物の種類が大分変わってきています。昔は野兎、山鳥、きじ、大きな動物で熊等でしたが、現在は今までいなかった猿、イノシシ、日本鹿等が田畑、野山、また家庭の生ゴミを荒らし、熊にいたっては軒下、土蔵の戸を壊して中の漬物が食い荒らされるという事態が起っています。

私は狩猟人として、有害鳥獣駆除員として1年中この対策に従事しています。狩猟が楽しみで受けた銃砲の許可ですが、年齢とともに駆除員の人数が減り厳しくなっています。狩猟や有害鳥獣駆除の方法を次世代の若者に早く教えていかなければ白馬の野山、耕作地は山の動物によって荒らされ、米や野菜、芋、そば等、農家の人たちが大切に育てる農作物が作れないようになるのではないかと懸念しています。

私達の努力でそんな村にはしたくないと思っています。



子どもの戻れる環境を!

沢渡 遠山 美穂

難病を発症して早9年。3歳だったひとり娘も今年中学入学。早く社会に馴染むようにと年少より保育所入園。同時に保育士として現場復帰をと思っていた矢先の発症。

そんな娘も成長し「お習字がしたい。」と教室に通い始めた。先生はとても寛大で温かく娘の心の拠り所となった。娘に負けじと私も一念発起。通信教育で師範を取得。子ども達の笑顔が見たい為と教室を開講。僅か10人の小さな教室。書道の基礎はきちんと指導する。

しかし私の一番の願いは「子ども達の心を育てること。」子ども達を取り巻く問題、本人家族それぞれの悩み。どこに相談すれば良いのか?思い立ち心理学を学ぶ。書道を通しメンタル面や子ども達の学校での問題等を一緒に考えている。白馬の子ども達は豊かな自然の中で育っている。村にはまだ問題が山積みしているが、「やっぱり白馬で暮らしたい。」と戻って来られる環境を子ども達の為に整えて欲しいと願う。

編集後記

「ハイブリット」、最近特に車や列車などに使われ耳慣れている言葉だが、スキートの指導方法にも取り入れられている。

全日本スキー連盟スキー教程によると、最近主流のカービングスキーの扱いは、「重力」を利用し、最小限の「筋力」で疲労の少ない、つまり省エネタイプの技術指導を目指しているという。

実際にスキースクールの指導者講習に参加してみると、今まで扱いきれなかったスキー板であったが、簡単に滑りのコツをつかめたような気がした。

今年はスキー発祥100周年でもあり、できるかぎり天気のいい日はスキー場に遊びに行こうかと思っている。

田中 栄一

議会報調査編集特別委員会

議長	下川 正剛
委員長	田中 榮一
副委員長	太田 伸子
委員	横田 孝穂
委員	太田 修
委員	小林 英雄
委員	太谷 正治